

学校教育ビジョン 自ら学び、たくましく生きる 心豊かな児童の育成										
めざす学校像 ・安全で安心して過ごせる学校 ・子どもも教師も成長を実感する学校			・家庭・地域とともに歩む学校 ・粘り強くやりぬく子 ・「ふるさとを愛する子			・自分も人も大切にする子 ・「チーム動橋」として協働できる教師				
評価の項目	今年度の重点目標	具体的な取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果(中間)	判定結果(最終)	今後の改善策
① 教育課程・ 学習指導	自ら考え、自分でみんなで学び続ける 自律した学び手の育成ができる授業づくりを目指す。	日々の授業において「委ねる」場面を意識して、教材研究を行い、授業を展開していく。ICTをベースとして授業を展開できるように、加賀市教育委員会のプロジェクトマネージャーや各種講師を招聘し、校内研修を行う。2学期に全校で「単元内自由進度学習」を実践していく。このような取り組みをし、自律した学び手を育成できることにつながる授業づくりを目指す。	研究主任	昨年度は「自律した学び手を育成するために目指す姿10ヶ条」を考え実践していた。昨年度ScTNアンケートの結果より、「授業を進めるのは、先生ではなくて、自分だ」と思いながら学んでいる感じている児童が「1学期48.9%、2学期64.0%」だった。現状子どもの意識として自分で学びを進めているとは言えない。	【成果指標】 授業では、「授業を進めるのは、先生ではなくて、自分だ」と思いながら学んでいる児童が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	授業では、「授業を進めるのは、先生ではなくて、自分だ」と思いながら学んでいる児童が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	学期末に行われる、加賀市ScTNアンケートの結果をもとに評価する。			
	「Be the Player Plan」をもとに、進んで自分の学びを進め、学びの楽しさを実感する子を育てる。	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な実現に向けた授業改善に取り組み、「Be the Player(自ら考え 動く生み出す子どもの姿)」を目指す。	教務主任	昨年度は、「Be the player(子どもに委ねる学び2.0)」の実現に向け、本校で育てたい児童の姿「自立した学び手10ヶ条」を作成し、児童・先生方と共にし、授業改善を図った。本校の現状や実態に応じた一定程度の成果は得たが、真に自律した学び、児童に委ねる授業には至っていない現状である。	【成果指標】 学期末テストにおいて、低学年は2教科、中学年以上は4教科の平均点で80点以上を取ることができた児童の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	学期末テストにおいて、低学年は2教科、中学年以上は4教科の平均点で80点以上を取ることができた児童の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	学期末テスト			
② 生徒指導 ※いじめの 未然防止	進んで元気なあいさつをする子を育てる。	児童会を主として、児童集会などあいさつの意義や仕方を考え、あいさつ運動などを通して実践する。	生徒指導主任	言われるからやるという受け身の児童が多く、主体的に行動できる児童が少ない。挨拶についても自分から進んでようとする児童は少なく、声も小さい。そのため、自分から元気な挨拶をする意識を高めていく必要がある。	【成果指標】 進んで元気なあいさつをすることができる児童の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上ある D 70%未満である	進んで元気なあいさつをすることができる児童の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上ある D 70%未満である	7月と12月に児童対象のアンケートを実施する。			
	いじめの未然防止・あたたかい雰囲気づくりにむけて、安心・安全な学級づくりを進める。	「いじめ問題対策チーム」を常設し、情報交換・共有化・共通理解等のため研修会を行い、いじめの未然防止、早期発見・対応に努めるとともに、特別支援校内委員会を活用し、児童理解、学習・個別支援に取り組む。	生徒指導主任	昨年度は、「学校は楽しいか」の質問に対して8割以上の児童が肯定的な回答をした。否定的な回答の理由は学習や友達関係でうまくいっていないことが予想される。そのため、教師間で児童の気になる行動を積極的に共有し、いじめやトラブルの未然防止や早期発見に努める必要がある。また、生活リズムの乱れや家族とのトラブルが要因の児童もいる。家庭が絡む児童には家庭との連絡を密にしたり、SCや外部機関とつなげながら対応していくたい。	【成果指標】 児童が、友だちとの関わり方や助け合う活動を通して、学校が楽しいと感じている。	学校で過ごすことが楽しいと感じている児童が A 85%以上である B 80%以上である C 70%以上ある D 70%未満である	7月と12月に児童対象のアンケートを実施する。			
③ キャリア教育	学校生活の充実と向上を図るために、係活動や委員会活動等を中心に自分の目標を立て、役割を分担し、主体的に考え実践できる児童を育てる。	児童が主体的に組織をつくり、役割を分担し、計画を立て、よりよい学校生活を送ることができるよう積極的に係活動や委員会活動等を行っていく。	児童会	昨年度は、児童自身から「〇〇がしたい」という声が上がり、新しい企画を考える委員会や、委員会の当番を忘れないよう心がけている児童も増えた。一方で、「〇〇したい」という気持ちよりも、「〇〇をすると面倒」とネガティブな気持ちを口に出してしまう児童もいる。行事や委員会の活動後の達成感を得られるよう、教師側から働きかけていく。	【成果指標】 委員会活動や係活動において「行きたい学校、幸せな学校」づくりのために活動に取り組めたと思う児童が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	委員会活動や係活動において「行きたい学校、幸せな学校」づくりのために活動に取り組めたと思う児童が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月と12月に児童対象に振り返りをする。			
④ 保健管理	心と身体の健康について考え、たくましい心と体を作り、健康な生活を送るための習慣や態度を養う。	児童が自らの心身の健康の大切さに关心が持てるよう、委員会活動や学校保健委員会などで取り組む。	保健主任	本校ではメディアの時間が長く、睡眠不足に繋がっている。そこで、自分でメディアコントロールができるように学校保健委員会で保護者や児童への働きかけを行いたい。	【成果指標】 決められた時間に寝ることができている児童が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	決められた時間に寝ことができている児童が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	7月と12月に児童対象のアンケートを実施する。			
	運動の楽しさと喜びを体得させ、生涯にわたって運動できる体つくりに努める。	自分のためをもち、日頃の体育の授業や体育的行事に取り組み、運動の楽しさや喜びを味わえるようにし、体力の向上を図っていく。	体育担当	体を動かすことが好きな児童が多く、休み時間は外や体育館で遊んでいる。さらに、体育の時間や体育的活動を通して運動の楽しさや喜びを味わえるような働きかけが求められる。	【成果指標】 自分でめあてをもち、体育の授業や体育的行事に取り組むことができた児童が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	自分でめあてをもち、体育の授業や体育的行事に取り組むことができた児童が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月と12月に児童対象のアンケートを実施する。			
⑤ 安全指導	児童が自らの命を守るために、適切に判断し主体的に行動できるよう、学校安全に関する意識の向上を図る。	学校と地域・警察等の関係機関が連携することで、実践的な防災教育・訓練を実施する。	教頭	地域と連携した登下校の安全指導、警察等関係機関と連携した訓練を行っている。児童は避難時の対応の仕方は概ね理解できている。しかし、突然に起きた危機的状況に対しての行動力は、今後身につけていく必要がある。	【成果指標】 児童が、避難時の対応の方法を生かし、自分で考えて的確に行動することができる。	避難訓練や防犯教室等で、自分で考えて避難行動ができた児童が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	訓練後の「ふり返りカード」で評価する。7月と12月に教職員アンケートを実施する。			
⑥ 特別支援教育	一人ひとりの個性を大切にし、よさを認め、安心して過ごせる環境づくりに努める。	個人に応じた対応策や環境整備のために、月末に児童の困り感や学級の様子を調査し、それをもとに校内委員会を開き、対応策などを全職員で共通理解し対応する。特性のある児童の理解についての研修や教員同士の学び合いができる場を設定し、よりよい指導と支援ができるようにしていきたい。	特別支援コーディネーター	困ったことがあったら校内委員会を開いたり、相談体制の強化を行い、教職員や保護者との連携、スクールカウンセラーや関係機関との連携は十分できた。しかし、校内委員会の回数が少なく十分でなかったことや教員の特別支援の知識や理解を深めることができることが必要を感じたため、研修会を増やしたい。	【成果指標】 教職員及び、教育支援員が、児童一人ひとりのために指導及び支援ができるように、コーディネーターや校内委員会のサポートが機能していると感じることができる。	特性のある児童の理解が深まったと思える教職員が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月と12月に教職員対象のアンケートを実施する。			
⑦ 組織運営・ 業務改善	学校経営ビジョンの具現化を目指し、教職員がチームの一員として組織的・協働的に力を發揮できる体制をつくる。	各部会、運営委員会、職員会議を計画的に行い、学校経営ビジョン実現に向け組織的・協働的に業務を遂行する。	教頭	運営委員会を開き、教育活動を進めているが、各部会が十分機能していない状況が見られる。各部会が機能する体制を作り、各部会、運営委員会、職員会議を計画的に実施し、組織的・協働的に教育活動を充実させていくことが求められる。	【努力指標】 学校経営ビジョンを実現するため組織的・協働的に業務を遂行することができたとする教職員が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	学校経営ビジョンを実現するため組織的・協働的に業務を遂行することができたとする教職員が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月と12月に教職員対象のアンケートを実施する。			
⑧ 研修	若プロの内容の充実を図り、「チーム動橋」で若手教職員を育てる。	若手のニーズや本校の実態に合った研修を計画し、日常的に授業改善・学級づくりのOJTができるよう計画していく。	教務主任	昨年度、ベテラン教員は、学級経営や生徒指導、授業づくり等教員の資質向上に直結する研修を、若手教員は自分の得意分野を活かした研修の場を計画的に設定することで、若手・ベテラン両者にとって有意義な研修を実施することができた。	【成果指標】 若手早期育成プログラムを受け、ステージに応じた資質能力を身に付けることができる。	若プロを受け、「授業・学級づくりに生かすことができた」と回答した教職員が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月と12月に教職員対象のアンケートを実施する。			
⑨ 保護者、地域との連携	「社会に開かれた教育課程の実現」に向けて地域・保護者と学校が連携し、開かれた学校づくりを推進する。	学校だより、学年だより等、各種おたより、コドモン、ホームページ等を活用し積極的に情報提供を行っていく。コミュニティ・スクールとの連携を図り教育活動を充実させていく。	教頭	学校だより、学年だより等、各種おたよりは定期的に発行している。また、地域資源(人・物)の活用と体験活動を取り入れ教育活動を進めている。社会に開かれた教育課程の実現に向け、保護者、地域との連携をさらに充実させていく。	【満足度指標】 各種おたより、ホームページ等を活用し、保護者・地域と連携し開かれた学校づくりを推進することができる。	学校の様子が分かると感じている保護者やCS委員等が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月と12月に保護者やCS委員等にアンケートを実施する。			
⑩ 教育環境整備	自律した学び手を育成するために、ICTをベースとした授業を展開することができる。	ICTをベースとした授業を展開できるよう、学校研究と連携した校内研修を複数回実施していく。ICTを障害なく活用できるように、各教室内の機器の整備やICTサポーターの日程調整などを行う。	情報担当	教職員間でICTを使いたいという意識はある。日常的にICTを活用したことについて教職員間で話をする機会があまりなかった。ICTをベースとした授業のイメージが持てていない現状がある。	【成果指標】 自律した学び手を育成するために、ICTをベースとした授業が展開できたと感じている教員が A 90%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 70%未満	自律した学び手を育成するために、ICTをベースとした授業が展開できたと感じている教員が A 90%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 70%未満	7月と12月に教員対象のアンケートを実施する。			